



アマスィヤ
アマスィヤ
バヤズィット2世大学校



アマスィヤ市街地見取図

ミフラブ、ミンベル、そして正門は顔してすらまると、白い大理石で几帳面に造られています。華やかな正門と誇文飾は、望めるばかりに豊富な鐘乳石模様で、上品で手の込んだものです。その上、木製の窓と門扉は、15世紀の、木製のかんめき技法の最も優れた見本です。

ミフラブ(メッカの方向を示すべきがん)
ミンベル(説教壇)



バヤズィット2世大学校

スルタン・バヤズィット2世の名において、息子であるアマスィヤ藩主・皇子アフメットにより、1481年から1485年にかけて、モスク、イスラーム神学校、イマーレット（貧窮者や学生達に食事を供給する食堂施設）、シャドゥルヴァン（手足を清める泉亭）などからなる総合学舎として建設されたものです。その後、モスクの南東の角に、皇子アフメットの幼い息子・皇子オスマンの名において建設された閣が加えられました。

モスクの構造は概要から言えば、窓にあるモスクの建築が発達した例でしょう。モスクの西側には、屋根付でU字型に中庭を囲む、18の部屋から成り立つイスラーム神学校があります。この建物は今日、県民図書館として使われています。モスクの東側にはU字型のイマーレット（食堂施設）があります。北西側には現在、管理人家として使われている歴史的な小建物があり、19世紀にはムヴァッキットハーネ（太陽を見ながら祈りの時間を知らせる係り＝ムヴァッキットの部屋）として建てられ、長年奉仕を続けていたところです。

アマスィヤ バヤズィット 2世大学校

アマズイヤ
ボラバイ湖





トルコ



ボラバイ湖

自然の景観を誇るボラバイ湖は、アマスィヤ県の中心地から63kmの距離にある、タシヨフ郡の境にあります。

自然の空間である湖は、海拔1,050mの高さにあります。周囲はブナ、赤松、ヒマラヤ杉、栗の木などに囲まれ、湖の色はエメラルド・グリーンです。

自然の中でウォーキングやピクニック、キャンプが楽しめるほか、宿泊にはバンガロータイプの家もあります。

アマスィヤ ボラバイ湖

www.amasya.gov.tr

主要な電話番号

県庁 (+90 358) 218 10 33 • 218 30 69 • 市役所: 218 80 00 消防: 218 50 05 • 文化局
光局: 218 50 02 • 国立病院: 218 40 00 • 警察: 218 45 13
オトガル本部: 218 80 12 • 観光案内: 218 74 28

コナック(屋敷・邸宅)の修繕は、1979年に始められました。1982年に完成し、1984年に随時出土した財が展示された博物館として公開されました。

ハゼランラル・コナーフには、古くから存在する民俗文化財が展示されています。これらの中には、日常生活を反映する器類類、織物類、陶器類、漆器類、家具類、そして文書や貨幣類の展示が数多くあります。

コナックの展示物は、その歴史の中心を占め、全館の糸で刺繍の施された衣装、織物類、そして金糸のズルマ(金メッキされた糸状の細い針を刺繍)などの装飾品の時々の様子を映し出しており貴重であります。

コナックの展示の収蔵は、階が博物館、地階は美術工芸のギャラリーとして使われています。

アマスイヤ ハゼランラル・コナーウ





ハゼランラル・コナーウ

マルボユ(川岸)に沿って、19世紀の一般の民家の特徴を生かした建築として、1865年に建設されました。その名は、コナックを建設させたハッサン・タラット・エフェンディの妹で、ここに長年におたり住み、そして寛容な人柄で知られた「ハゼラン・ハヌム」から名づけられました。

ハゼランラル・コナーウは、4つのエイヴァン(部屋と部屋のしきりの間)を持ち、中央にソファ(共同の間)を置いた設計の、オスマン朝時代の地方の民家の特徴を反映した最も素晴らしい建築の一つです。コナックは、ハレムリッキ(女性の場)とセラームルック(男性の・公的な場)として、2つの部分に分かれて設計されました。4つの部屋の仕切りと中庭、外部と遮断された造りのタイプです。

コナックは、ハレムリッキ(女性の場)とセラームルック(男性の・公的な場)として、2つの部分に分かれて設計されました。4つの部屋の仕切りと中庭、外部と遮断された造りのタイプです。

アマシヤ ハゼランラル・ コナーウ

www.amasya.gov.tr



アマスイヤ
城址



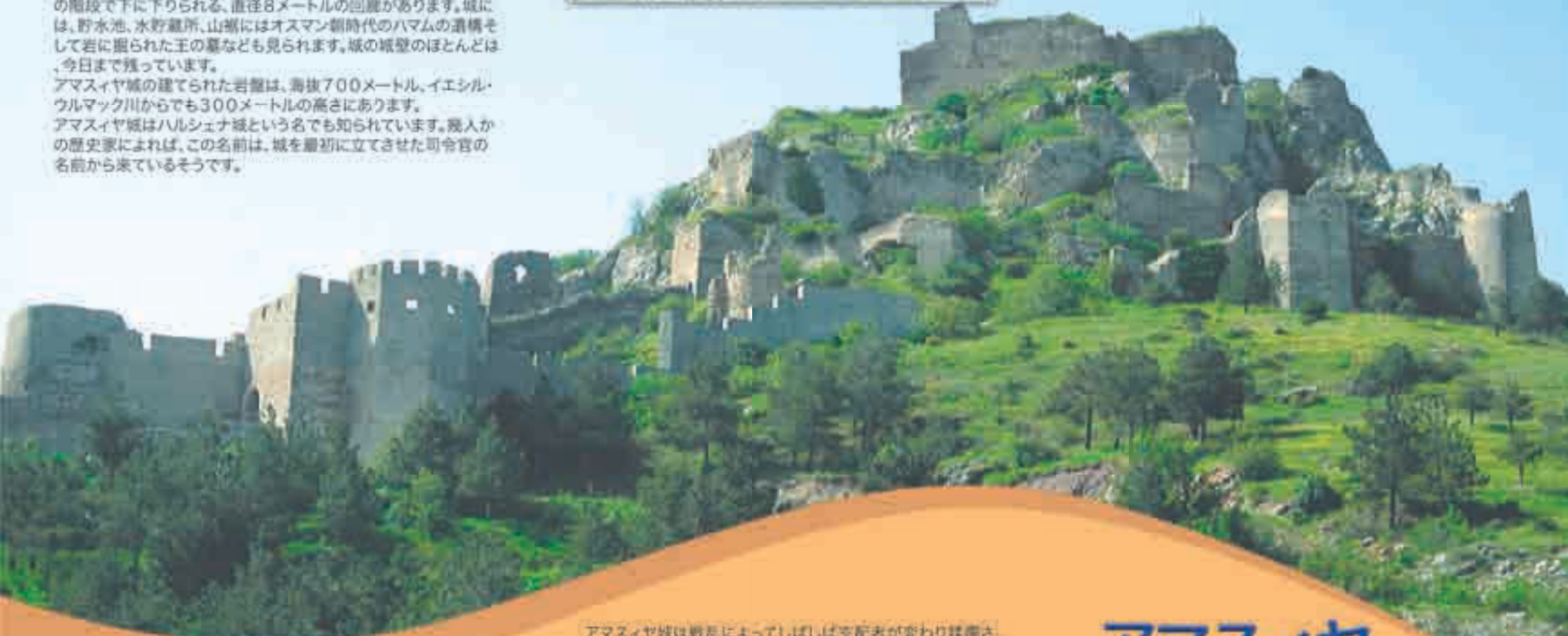
アマスィヤ城址

アマスィヤ城は最初ヘレニズム時代に建設され、ローマ、ビザンティン、そしてセルシユク王朝時代に修復されています。城内には牢屋とスルタン・バヤズィッドによって造られた監獄とがあります。街のすべてがここから鳥の目で見えるように眺めることが出来ます。城から70メートル下にはイエシル・ウルマック(緑の川)が流れ、王の墓にまで届く紀元前3世紀の階段式地下道と塔やモスクの遺跡が残っています。

ハルシェナ山の岩壁の頂上にある城は、イエシル・ウルマック川の岸辺に至るまで8段階の防衛力があります。ジランボルと言われる、城の中ほどに、入り口と並ぶやや高い場所に、岩を削った150段の階段で下に下りられる、直径8メートルの回廊があります。城には、貯水池、水貯蔵所、山頂にはオスマン朝時代のハمامの遺構そして岩に掘られた王の墓なども見られます。城の城壁のほとんどは、今日まで残っています。

アマスィヤ城の建てられた岩壁は、海拔700メートル、イエシル・ウルマック川からでも300メートルの高さにあります。

アマスィヤ城はハルシェナ城という名でも知られています。幾人かの歴史家によれば、この名前は、城を最初に立てさせた司令官の名前から来ているそうです。



アマスィヤ城は戦乱によってしばしば支配者が変わり揉み潰されてきました。ペルス、ローマ、ポントスそしてビザンティンの支配下で幾たびも襲撃にさらされたアマスィヤ城は、何世紀もの間に何度も崩壊しそして繰り返し繰り返し修復工事がなされました。

ローマとポントス人との間の血塗られた衝突の折にも重大な破壊を受けたハルシェナ城は、1075年にトルコ民族のアマスィヤ征服と同時に大修復され、18世紀まで使われた城は、それ以後軍事的要衝の意義を失いました。

アマスィヤ 城址

www.amasya.gov.tr

主要な電話番号

市庁舎 (+90 358) 218 10 33 • 218 30 69 • 市役所: 218 80 00 警察: 218 58 05 • 文化観光局: 218 50 02 • 国立病院: 218 40 00 • 博物館: 218 45 17
トルコ大使館: 218 80 12 • 観光案内所: 218 74 29



テルズイキヨイ温泉郷

温泉成分の医学的レポート

重碳酸塩、ナトリウム、サトリウムを含み、硬度は37
です。1リットル中0.700gの塩化物、おおよそ
4mgの放射線を持ち、血圧を降下し、体の各部に
活力を与える温泉です。

療法的な名目上、プルの温泉と同じです。飲用または
入浴は血圧を降下させる効果、腎臓を減少させ、胆汁
の分泌を増進させます。利尿効果があります。コレステ
ロールと脂肪酸を予備に整えます。糖尿病の人は
血糖を刺激しながら血糖値を下げます。

リウマチ、関節、腎、肺、神経組織、胆管、腎臓、婦人科
などを治す効果があります。

医学博士 イスマイル・コジャ
アンカラ病院
物理・リハビリテーションクリニック主任





トルコ



テルズィキョイ温泉郷

テルズィキョイ温泉は県の主要な温泉街の一つです。アマスィヤ〜チョルム街道沿い、県の中央部まで35キロの距離にあって、55,000㎡の緑野の中に造られています。

温泉の温度は37℃です。テルズィキョイ温泉郷は、全室温泉の湯が引かれた72床のホテルと、45床のモデル、カフェテリア、食堂、プール、個室、ショッピング・モール、お子様遊園地、ピクニック・エリア、そしてプライベートなペンションなど、わが国の観光温泉地の重要な位置を占めています。

主要な電話番号

県庁: (+90 358) 218 10 33 • 218 30 69 • 市民庁: 218 80 00 県警: 218 50 05
• 文化観光局: 218 50 02 • 観光警察: 218 40 00 • 博物館: 218 45 17
ポトガル本部: 218 80 12 • 観光案内所: 218 74 28

アマスィヤ テルズィキョイ 温泉郷

ご予約

Tel: 0358-225-0219 (2回線)

www.amasya.gov.tr

クラルカヤ岩窟墓群は歴史上騒乱の時代に監獄と懲罰の場所としても使われたようです。クラルカヤ岩窟墓群の最大のもは、回廊と階段で登る西側の一番最後の墓です。この洞穴の高さは15メートル、幅は8メートル、奥行きは6メートルです。墓室への入り口はほかの墓よりもっと高い壁がついています。

アマスィヤの環状道路のサムスン方向から右に分かれるズィヤレット・ベルアシ街道に沿った、市外の中央まで3、300メートルの距離にあるアイナル洞窟は、岩窟墓群の中で最もよく造成され完成されたものです。ここが「アイナル(鏡の)洞窟」と言われる由縁は、光が当たったとき、洞窟の壁面が輝くように見えるところからです。

アマスィヤ クラルカヤ岩窟墓群

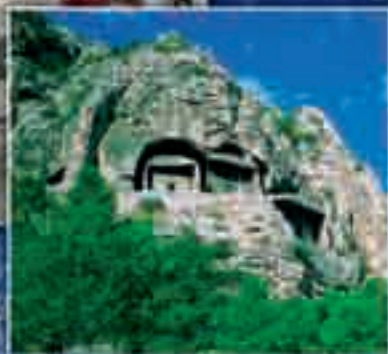


主要な電話番号

旅行 (490 358) 218 70 33 + 218 30 65 • 市況係 218 88 00 警察 218 50 05
• 文化観光局 218 50 02 • 国立病院 218 40 00 • 博物館 218 45 13
• 225 本部 218 80 12 • 観光案内所 218 14 28



トルコ



元々この土地の古くから
アマシヤで有名な銅像

クラルカヤ岩窟墓群

ヘレニズム時代に、ハルシェナ山の南麓にある石灰岩に彫られたこの窟墓群は、古代の歴史家ストラボンによるとミトリダット王朝時代、王家の名において造られた記念の窟です。イエシル・ウルマック(緑の川)の深谷全体に大小23の岩窟墓が存在するため、この地域は「王達の谷」としても知られています。岩窟墓の中でたくさん、後ろ側も彫って通り抜けにしてあるのが注意を引きます。石灰岩を彫りながら作られたこれらの墓の築造法とその巨大さは、都市国家を支配する上でも重要なポイントであったと思われる。

※ クラルカヤ(王の岩という意味)

アマシヤ クラルカヤ 岩窟墓群

www.amasya.gov.tr



小さな男の子のミイラ



絨毯 (1909~1918)



ブロンズ製サライジユクの財宝 (西暦307-337)



新つきの壺 (オスマン朝時代 19-20世紀)



書巻 (オスマン朝時代)



木製の屏



木製のサンドッカ
(墓の上に置く巨大の箱) (360)



アクタルラの石棺
(ローマ時代 2-3世紀)

水差し(オスマン朝時代 紀元前2-1世紀)



水牛の頭のかぶりをした酒器
(ギリシア時代 紀元前2-1世紀)

聖母マリア像 (ビザンティン時代)



皇帝ドミティアンの肖像入り黄金製首飾の石 (ローマ時代 西暦95年)

黄金製首飾 (ローマ時代 3世紀)

ローマ時代のアマスィヤの貨幣



テシュップのブロンズ像 (ヒッタイト時代 紀元前14-12世紀)

アマスィヤ博物館

アマスィヤ博物館は1925年開設されました。当初はあちこちらの建物に分散して公開されていましたが、1980年を機に新設された現在の博物館に移転しました。

アマスィヤ博物館では、青銅器時代に始まり、鉄器時代、ヒッタイト、ウラルトゥ、フィリギア、イスキット、ペルス、ギリシャ、ローマ、ビザンティン、セルジューク、そしてオスマン朝時代に属する12の異なる文明が残した品々を一堂に見ることが出来ます。

屋外展示場(庭園)

博物館の西側にある庭園内では、ヒッタイト、ギリシャ、ローマ、ビザンティン、イルハン国、セルジューク、そしてオスマン朝時代の石造りの作品群が展示されています。

ミイラ

当博物館のミイラは、庭園内にあるセルジューク王朝のスルタン、メスッド1世の廟内に展示されています。

これらのミイラは14世紀に、イルハン国がアナトリアを支配していた時代に、国王や大臣級の重要人物と、その近親の人々のものです。これらは、イシブア・ノイン、ジューダル、イズゼッティン・メフメット・ベルバーネ・ベイ、妻、男女の子供達であると思われています。



アマスィヤ アマスィヤ 考古学博物館

www.amasya.gov.tr

開明は包括的に足踏が外に張り出した出窓の形で建てられています。これがため、家の構造は左右の釣り合いがよく、内閣が上り一層広く使えるようになっていることが要件です。特に川岸に沿って、歴史的に田舎の建築の上に建てられた邸宅の姿はたいそう人目を引くものです。これらの邸宅は、「エリザベツクンシア（手紙の貴族にの意味）」と呼ばれる柱の支柱で支えられながら外に張り出しています。そしてこれにより家の内閣が拡張され、場所が広く使えるようになっています。日々の暮らしは、家々の内閣で、ソファ（ハマト）と呼ばれる中央の低い部分を中心に、その周囲に設置された座敷の中で過ごしています。この各所には、茶室、場所（シェラベットワット）（果汁を作る、または民謡する場）、スグルック（押入れ＝作り付けの戸棚）、廊、そしてセタールと呼ばれる壁際の窓などがあります。しかし、建物の外は別として、家々で別々のグスルバーネ（庭園）が広がっていることから、建物の邸宅で大きく建てられたコグルック（押入れ）を庭園場として使ったと思われる。

アマスイヤ ヤルボユ・エヴレル【川辺の家々】



川岸に位置するシェワサーが旧別荘博物館では、アマスイヤで出版事業を始めたオスマン朝時代の皇子達や、スルタン達について展示されています。



ヤルボユ・エヴレル【川辺の家々】

イエシル・ウルマック(緑の川)の岸辺で、歴史的な城壁の上に、木材を組み合わせた間に、日干し煉瓦を埋め込む手法で建築されたものです。壁状に、あるいは互い違いに組み合わせた屋根の骨組みの上に、溝つきの屋根瓦で覆った形で完成させた、伝統的オスマン朝時代の家のすべての特徴を備えたこれらの家々は、アマスィヤの歴史的な存在と調和の取れた外観を呈しています。

主要な電話番号
県庁: (+90 358) 218 10 33 • 218 30 02 • 市政府: 218 80 00 県警: 218 50 05 • 文
化観光局: 218 50 02 • 国立病院: 218 40 00 • 博物館: 218 45 18
オトリス本部: 218 80 32 • 観光案内所: 218 74 06

家々は隣り合って並んでおり、地上1階あるいは2階として造られています。ときに設計上、1階の上に、またときとして2階の上に、「キョシュク」として知られる「シャフニシュ(家の外に張り出した屋根つきバルコニー)」が設置されていることがあります。

一般的に家々は中庭と庭を持っています。中庭では井戸とがまどが最初に目に飛び込んできます。アマスィヤの家々では、内部にせよ外にせよ、存在するすべてのものの間に、ゆるぎないつながりがあることが必須で、このつながりはどれも互いを補い完成させる性質のもので、



アマスィヤ ヤルボユ・エヴレル 【川辺の家々】

www.amasya.gov.tr